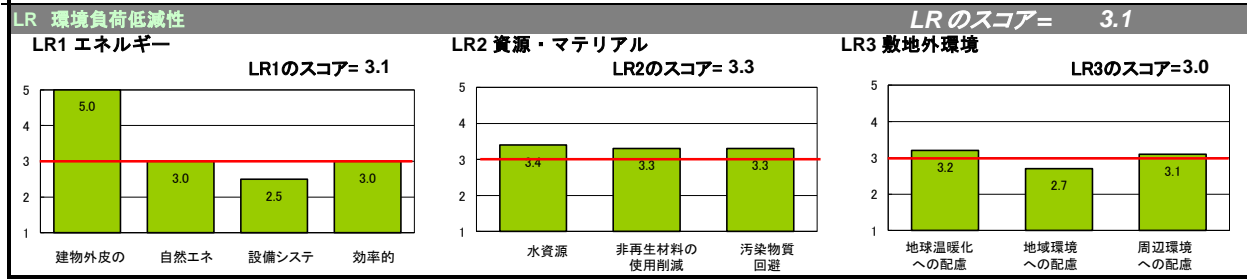
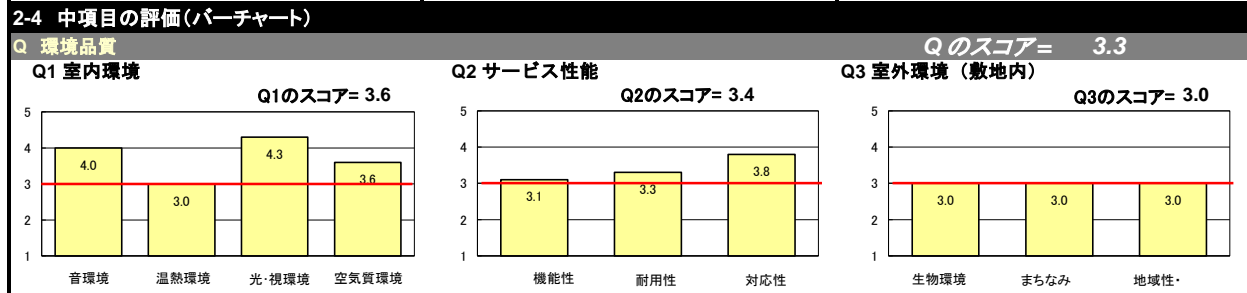
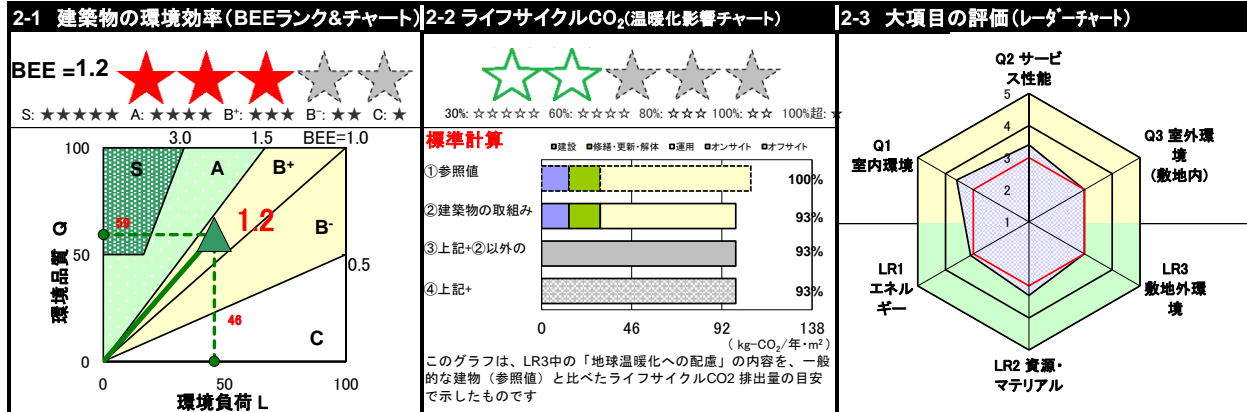


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東京応化工業㈱相模再構プロジェクト2期新厚生館建設工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県高座郡寒川町田端1590	構造	S造
用途地域	工業専用地域、22条区域	平均居住人員	786 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2020年12月16日
敷地面積	1,800 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 昭和設計
建築面積	1,120 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月16日
延床面積	4,112 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 昭和設計



3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>大きな開口部により自然光を取り入れ、開放的で快適な空間を目指した。また、テラス部に屋上緑化を設け、自然に触れりフレッシュできる空間の創出を図っている。</p> <p>将来の人員増加や設備機器の増設・更新に対応可能な平面計画及び空調熱源設備計画としている。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>屋上外断熱、開口部のLow-E複層ガラス採用など、外皮性能の向上に努めている。昼光率を高めに設定し、また、ブラインドや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも十分配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内外装共防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。照明制御は人感センサー・明るさセンサー制御、タイマ制御を用いて効率的な計画としている。厨房には換気天井システムを採用し、快適な厨房環境を確保しつつ、給排気容量の削減を図っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>自動水栓、省水型機器を採用するなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される